皇室に愛された名旅館 特集

昭和、平成から令和へ―

静岡県・堂ヶ島温泉

堂ヶ島ニュー銀水

西伊豆屈指のリゾート

静岡県西伊豆・堂ヶ島温泉の堂ヶ島ニュー銀水は、稲取銀水荘（同県東伊豆町）の姉妹館として昭和48年4月にオープンした。「伊豆の松島」とうたわれ、海に沈む夕日が美しい堂ヶ島。同37年に温泉が湧出したこともあり、「景観の素晴らしい堂ヶ島は必ず西伊豆観光の中心になる」と、西伊豆屈指の大型リゾートとしてオープンしたものだ。

平成11年5月、「第50回全国植樹祭」が静岡県の伊豆半島で開かれ、同館がそのレセプション会場となった。天皇皇后両陛下をはじめ、300人以上が同館に宿泊。「全社一丸となってその日に向かって奔走した。両陛下を無事お迎えすることができたが、最も頭を悩ませたのがお食事。地のものを主体に旬の食材を使い、全ての料理を一口サイズ、一箸サイズにしてお召し上がりやすいように細心の配慮をしてご提供した」。

イセエビ、アワビ、キンメダイ、静岡産牛、季節の野菜と、地元の旬の素材を使った料理は現代の舌の肥えた客も満足させている。

▽静岡県賀茂郡西伊豆町仁科2977の1。☎0558（52）2211。https://www.dougashima-newginsui.jp/

海を見下ろすロケーション

富山県・宇奈月温泉

延楽

匠の技を現代に継承

富山県宇奈月温泉の延楽は昭和12年の創業。温泉地とほぼ同じ歴史を持つ老舗宿だ。

料理人でもあった初代経営者の濱田竹次郎氏は日本古来の和の良さに徹底的にこだわったという。「自分の思い描く日本の宿をつくる」ため、豊富な温泉、雄大で美しい景色を持つこの地を拠点に選んだ。オープン以来、温泉やロケーションもさることながら、竹次郎氏の料理の腕の良さが評判となり、皇室の方々や文人墨客など、利用する人々が時代とともに増えた。

昭和33年、当時の天皇皇后両陛下が第13回国民体育大会の折にご宿泊。「くれないに　染め始めたる　山あいを　流るる水の　清くもあるかな」と歌を詠まれた。

また同36年は現在の天皇皇后両陛下が第20回全日本産業安全大会ご臨席のため富山に初の来県。同館に宿泊されている。

初代の匠の技は現代にも受け継がれている。「天然のいけす」富山湾の幸を生かした料理は「旅館料理の粋を超えた」と評判。季節の旬の素材を最高の形で味わうことができる。

▽富山県黒部市宇奈月温泉347の1。☎0765（62）1211。https://www.enraku.com/

ヒノキの露天風呂

三重県・鳥羽温泉郷

戸田家

「温泉村」で湯三昧を

三重県伊勢志摩国立公園、鳥羽温泉郷の戸田家は江戸時代の天保元年（1830年）の創業。伊勢市での割烹料理店、旅館の時代を経て昭和21年に現在の戸田家の前身となる「鳥羽別館」を開業した。鳥羽湾がすぐ目の前という絶好のロケーションと、近鉄・JR鳥羽駅、三交バスターミナルの近くであり、海のレジャーを楽しむ観光客らでにぎわっている。

明治18年、初代首相の伊藤博文公が投宿（宿泊は伊勢市の旅館時代）。以来、各界の名士の指定宿となった。今上天皇は皇太子時代の昭和50年の三重国体の際にご宿泊。現在の皇太子殿下は同58年と60年、英国留学の前後に伊勢神宮を参拝された際、秋篠宮殿下も平成3、6、12年と鳥羽水族館を訪問の際、宿泊されている。

同館の自慢の一つは大浴場、露天風呂と、趣の異なる男女合わせて13もの風呂と、無料で利用できる五つの貸し切り風呂を備えた「戸田家温泉村」。館内にいながらにして温泉三昧を楽しめる。

伊勢エビ、アワビ、松阪牛など地元のブランド食材を使った料理は客前で調理するライブキッチンのバイキング、御客前会席料理のレストラン、客室・料亭街の3カ所で味わえる。

▽三重県鳥羽市鳥羽1の24の26。☎0599（25）2500。https://www.todaya.co.jp/

鳥羽湾を臨む景勝地にある

岐阜県・下呂温泉

水明館

「日本三名泉」を心ゆくまで

草津、有馬と並ぶ「日本三名泉」の岐阜県・下呂温泉。水明館は昭和7年創業の同温泉を代表する名旅館だ。清流飛騨川沿いの1万余坪の敷地に「山水閣」「飛泉閣」「臨川閣」、離れ「青嵐荘」と四つの館が並び、人々のさまざまな旅行のニーズに応えている。

臨川閣最上階（12階）に位置する貴賓室「蓬莱」「和合」はそれぞれ広さ210平方㍍。12・5畳と8畳の和室、リビング、ベッドルームを備えたほか、大理石と高野槇（まき）の2種の室内風呂を装備。贅と心を尽くした特別室で、これまで皇族方をはじめ、時の総理大臣など多くのVIP、著名人を迎えてきた。

天皇皇后両陛下を迎えたのは平成18年5月。地元下呂市で開催された全国植樹祭に臨席のため、宿泊されたのだ。宿泊の打診があったのはわずか3カ月前。それでもしっかりとお迎えができるようにと、貴賓室の設備、装備を新しくし、ロビーからの廊下のじゅうたんも一新した。「山間の宿ならではのおもてなしでお過ごしいただきたい」と特別なしつらえも行い、「両陛下がたいそう喜ばれてお帰りになったと後でお聞きしたことが何よりもうれしかった」と瀧多賀男会長。

山水閣、飛泉閣、臨川閣のそれぞれに大浴場を備え、宿泊客はどの館に宿泊しても3カ所全てを利用できる。山水閣1階の野天風呂「龍神の湯」「観音の湯」は巨岩と緑に囲まれた野趣あふれる野天の湯。飛泉閣9階の展望大浴場は温泉街の街並みや山々を一望する明るく広々とした湯。臨川閣3階の「下留の湯」は天井、壁、柱と飛騨名産のヒノキにこだわった芳香漂う湯だ。

料理は日本有数のブランド牛「飛騨牛」、地元の農家と提携した新鮮野菜など、県産の食材にこだわる。部屋での和食会席のほか、レストランでのフレンチ、中華など、さまざまな食事スタイルを選べる。

▽岐阜県下呂市幸田1268。☎0576（25）2800。https://www.suimeikan.co.jp/

臨川閣ロビー

貴賓室「蓬莱」

岡山県・倉敷市

下電ホテル

海と瀬戸大橋を一望

岡山県倉敷市の下電ホテルは、瀬戸内海国立公園の特別景勝地区にある唯一の宿。全ての客室から海と瀬戸大橋を望む絶景が自慢だ。目の前に白砂のプライベートビーチが広がり、宿から直接の出入りが可能。芝生の庭園もあり、バーベキューなど、四季を通して楽しめる。

昭和7年、「鷲麓園」の名で開業した同館。以来、国内外の多くのVIPをもてなしている。

昭和37年10月23日、第17回国体が岡山県で開催された際、当時の天皇皇后両陛下がご宿泊。天皇陛下は「夕されば　あかねにそまる空の下　波たたぬ沖の　島山のみゆ」と歌を詠まれた。

光明石温泉の展望大浴場は、男性が80人、女性が50人、同時に入浴できる広々とした浴場。客室と同様、瀬戸内の見事な景色を一望する。

専用入浴着で入る混浴露天風呂&サウナ「はれ＊はれ」、二つの貸し切り風呂と、ファミリーのニーズにも応える。

瀬戸内産のタイやタコ、岡山付近で有名な「ままかり」など、この土地ならではの味も楽しめる。

▽岡山県倉敷市大浜海岸。☎086（479）7111。https://shimoden.bonvoyage.co.jp/

瀬戸大橋がすぐ目の前

長崎県・雲仙温泉

雲仙観光ホテル

九州唯一のクラシックホテル

古くから外国人の避暑地としてにぎわい、日本初の国立公園にも指定された雲仙。昭和7年、外国人観光客誘致のため、国策で日本各地に外国人向けのホテルが建設されることになり、この地にも洋風スタイルのホテルが建設されることになった。それが現在の雲仙観光ホテルだ。創業は昭和10年10月10日。以来、80余年の長きにわたり、同地を訪れる内外の観光客や地元の人々に親しまれてきた。

九州唯一のクラシックホテルの同館は、昭和54年に日本建築学会の「近代日本の名建築」、平成15年に文化庁の「登録有形文化財」に登録。同19年は長崎県から「まちづくり景観資産」、経済産業省から「近代化産業遺産」にそれぞれ指定されている。

皇室との歴史も古い同館。昭和13年は久邇宮妃殿下が佐世保海軍、大村陸軍病院慰問のため皇族として初のご訪問。同36年は当時の天皇皇后両陛下が雲仙へ行幸の際、宿泊された。さらに平成に入り、7年は第49回全国野鳥保護の集い開催に伴い、常陸宮殿下、同妃殿下が宿泊されている。

スイスシャレー様式を取り入れた山小屋風の建築。全39室の客室は昭和天皇をはじめ、多くのVIPが宿泊したラグジュアリーな特別室からスタンダードな部屋まで、創業当時の風格を備えたさまざまなタイプをそろえている。

高い天井と磨かれた木の床が印象的なダイニングでは、雲仙と島原半島の厳選された食材を使ったフレンチを提供。

浴室はドーム型の天井とステンドグラス、アールデコ調のデザインで配されたタイルで装飾。「雲仙地獄」から湧き出る源泉掛け流しの硫黄泉を心ゆくまで楽しめる。

昔から長期滞在の宿泊客が多かった同館だけに、バー、図書室、映写室、撞球室（ビリヤード室）と、パブリック施設も充実している。

▽長崎県雲仙市小浜町雲仙320。☎0957（73）3263。http://www.unzenkankohotel.com/

特別室

Unzen Kanko Hotel

山小屋風建築のホテル

山口県・はぎ温泉

萩城三の丸 北門屋敷

「萩城下町」唯一の旅館

山口県萩市の「萩城三の丸　北門屋敷」は、世界遺産「萩城下町」の中にある唯一の旅館だ。萩城から程近い、かつて城を守る重臣たちが居を構えた萩城三の丸の毛利一門・吉敷毛利家屋敷跡にある。藩政時代からほとんど変わらない町割りと、当時の面影を色濃く残した武家屋敷群。江戸時代の息づかいをそのまま感じられる。

同館は皇室御用達でもあり、平成5年7月、皇太子殿下と雅子さまが6月のご成婚後、お2人で初めてお泊まりになった旅館という。宿泊されたのは貴賓室「桂月」。皇族方が萩に来られる際は、この部屋が利用されている。

武家屋敷を思わせる表門をくぐると、周囲とは趣が異なる洋風のガーデンが広がる。「萩の先人たちが和の精神をもって洋を学んだように、旅館という日本のおもてなしの心をもって、ロマンチックな洋の優雅さや華やかさを取り入れた」。

フグ、アマダイ、見蘭牛、長萩和牛、むつみ豚など地元のブランド食、心と体を癒やす天然の「はぎ温泉」も味わいたい。

▽山口県萩市堀内210。☎0838（22）7521。http://www.hokumon.co.jp/

武家屋敷を思わせる表門

鹿児島県・指宿温泉

指宿白水館

「薩摩の全て」を伝える館

鹿児島県指宿温泉の指宿白水館は昭和22年、鹿児島市内で創業。同35年に現在の地に進出した。錦江湾を望む広大な敷地に「薩摩客殿」「花の棟」「磯客殿」「離宮」という四つの客室棟を展開。大型旅館ながら、落ち着いた和の情緒ときめ細かなサービスには定評がある。

世界のVIPも訪れ、平成15年にロシアのエリツィン大統領（当時）、翌16年に小泉純一郎首相と韓国の盧武鉉（ノ・ムヒョン）大統領（ともに当時）が日韓首脳会談で同館を訪れたのは記憶に新しい。

皇室との関係は、昭和47年に三笠宮ご夫妻と寛仁親王が第27回国体の視察で宿泊。同50年は秩父宮妃殿下が宿泊された。平成20年は常陸宮ご夫妻が同館の「薩摩伝承館」に立ち寄られている。

薩摩伝承館は同館創業者と現在の館主が長年にわたり収集した約3千点の美術品、工芸品を展示する歴史資料館。「ここに来れば薩摩の全てが分かる」という必見の場所だ。平成21年には天皇陛下即位20年、天皇皇后両陛下成婚50年を記念した皇室の衣装展も開催している。

白水館のもう一つの名物は「元禄風呂」。江戸の文化が最も栄えた元禄時代の庶民の社交場だった銭湯を意識し、日本のお風呂の歴史を再現したという。広さは約千坪。浮世絵を壁一面に施した「浮世風呂」「花魁（おいらん）風呂」や、現在のサウナの原型で江戸時代の蒸し風呂「江戸石榴（ざくろ）風呂」、樽風呂、泡泉と、バラエティに富んでいる。

そして指宿で忘れてならないのが砂むし。温かい砂に身をゆだねると次第に体がぽかぽかし、砂の重さと温泉の効果で体中の老廃物が汗とともに流れ出る。

料理は毎月献立が変わる。枕崎産カツオ、錦江湾産キビナゴ、屋久島産トビウオ、肥沃な大地で育った黒豚、黒牛と、鹿児島の旬の味覚が食膳に並ぶ。

▽鹿児島県指宿市東方12126の12。☎0993（22）3131。http://www.hakusuikan.co.jp/

元禄風呂

正面玄関